

## 活動状況報告書（10月分）

学生留学コース 小黒 恩賓

10月に入り秋が本格化してきました。気温や天候は、北海道の秋とあまり変わらないので急に体調を崩すこともなく元気に過ごせています。ただ急に寒くなってきているので、食事や運動に気をつけながら温かくして健康に気をつけたいと思います。フィンランドにきてから2ヶ月が過ぎ、徐々に学校や生活のリズムが整い始めようやく慣れてきたと言えそうです。

ジェンダーの視点から見るフィンランドについての授業では、19世紀から20世紀にかけてフィンランド国家が近代化していく歴史の中でどのようにジェンダー観が形成され、変化してきたのかについて学びました。また農村社会やコミュニケーションなど、日常の文化レベルからも学ぶことができたのですが、特に興味を持ったのは「サーミ」という先住民族との関係もフィンランドのジェンダー形成において非常に重要なトピックであったことです。サーミは、フィンランド、スウェーデン、ノルウェー、ロシアの4カ国にわたって暮らしている先住民族で、彼ら独自の言語、文化、生活様式を持ち続けています。フィンランドの歴史や文化について学ぶ授業においても彼らは常に言及されますが、その度に思い出すのは北海道におけるアイヌ民族のことでした。彼らの辿った歴史には、アイヌ民族との共通点も多く北海道大学での人類学や博物館学の授業での学びを活かすことができたと同時に新しい学びもありました。このトピックは今後もより理解を深めたいと感じたため、フィンランドのサーミ民族についての研究に関する授業も後期に履修したいと思います。

こちらに来てから日本について興味と好印象を持つ外国人は自分が想像していたよりもずっと多いと感じていますが、特に北海道のことを知っていて興味を持ってくれている人もかなりいて、北海道ブランドの強さを感じます。またたとえ知らない人でも海鮮料理やスキーなど北海道ならではの魅力について語ると強い関心と興味を持ってくれます。他国の留学生と共同でのインターナショナルランチやディナー、フィンランドの現地学生との料理パーティーなどをする機会が多いので、今度は北海道の郷土料理にチャレンジしたいと思います。

各国の料理を持ち寄った昼食会の様子



フィンランド語の授業の様子（聴講だけでなく、道具を用いたおもしろい方法でした。）